2026年3月期 第2四半期(中間期)決算 ~上期実績と今期の見通しについて~

株式会社ヤクルト本社 代表取締役社長 成田 裕



2025年11月14日

2026年3月期 第2四半期(中間期)連結決算概況

	実績 (うち、為替影響額※)	前年比	予想対比 (2025/7/29発表)
売上高	2,411億円 (▲109億円)	94.5%	97.8%
営業利益	253億円 (▲21億円)	75.0%	93.8%
経常利益	362億円 (▲27億円)	80.1%	96.6%
親会社株主に帰属する中間純利益	245億円 (▲14億円)	89.2%	104.3%

[※]為替影響額は対前年度実績

2026年3月期 通期業績予想(連結)の見直し

				Yakuit
	修正業績予想 (うち、為替影響額※)	前回業績予想 (2025/7/29発表)	前回業績 予想比	前年比
売上高	4,895億円 (+24億円)	4,950億円	98.9%	98.0%
営業利益	485億円 (+4億円)	535億円	90.7%	87.6%
経常利益	670億円 (+6億円)	695億円	96.4%	88.3%
親会社株主に帰属		455億円	102.2%	102.1%
1株当たり 当期純利	(円 銭) 158.57	(円 銭) 155.23	102.2%	105.4%

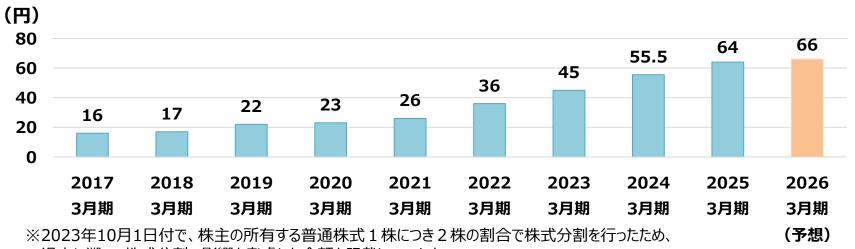
[※]為替影響額は対前回業績予想



<方針>

累進配当の考え方に基づき、継続的な増配を目指すことを 最優先とし、将来の事業拡大や収益向上を図るための資金需要 および財政状況ならびに当期の業績などを総合的に勘案して配当 金額を決定します。

加えて、総還元性向70%を目安とし、市場環境やキャッシュ・ フロー等を勘案したうえで、機動的な自己株式の取得を実施します。 ※自己株式の取得は、2031年3月期までに1,000億円以上の実施を見込んでいます。

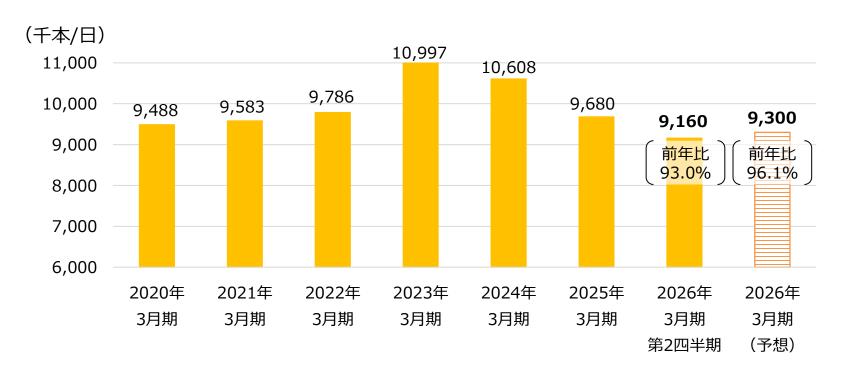


過去に遡って株式分割の影響を考慮した金額を記載しています。

飲料食品事業(日本)



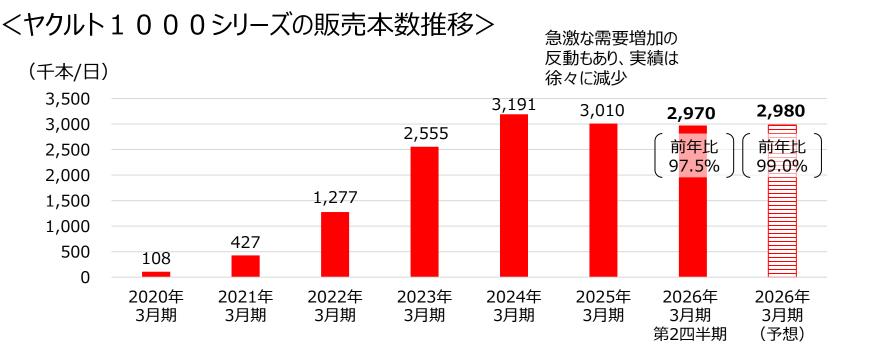
<乳製品全体の販売本数推移>



- ・上期は、前年と比べ、乳製品全体の販売本数が7.0%減少
- ・物価高騰による消費意欲の低下や他社商品の台頭などで、外部環境は厳しさが増す
- ・記録的猛暑の影響で、ヤクルトレディの活動が鈍化し、販売本数が伸び悩む
- ・下期はさらなる販売促進活動や広告展開を通じて販売本数の回復を目指す

飲料食品事業 (日本)





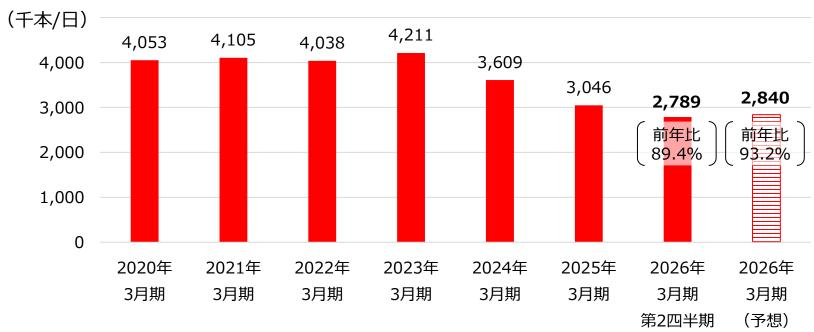
- ・上期は、前年と比べ、販売本数が2.5%減少
- ・宅配・店頭チャネルで糖質オフタイプを展開したが、お客さまの大幅な増加には 結びつかず
- ・糖質オフタイプの商品の認知と理解は徐々に進んでおり、根気強くお客さまづくりに

取り組む

飲料食品事業(日本)



<Newヤクルトシリーズの販売本数推移>



- ・2023年の価格改定以降、販売本数は減少
- ·2025年11月から「Newヤクルトピーチ味」を発売

「乳酸菌シロタ株」の価値訴求を土台にしながら、



期間限定発売 2025月11月10日~2026年3月末(予定)

ヤクルトブランドの商品の毎日飲用を促すことで、販売本数の回復につなげていく

飲料食品事業 (日本)



<下期の主な活動>

「ギネス世界記録™」認定を記念した 特別パッケージを順次展開



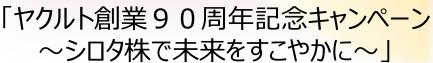




「最大の乳酸飲料/乳酸菌飲料ブランド」 (最新年間売上2024年)

多面的な施策を並行して展開







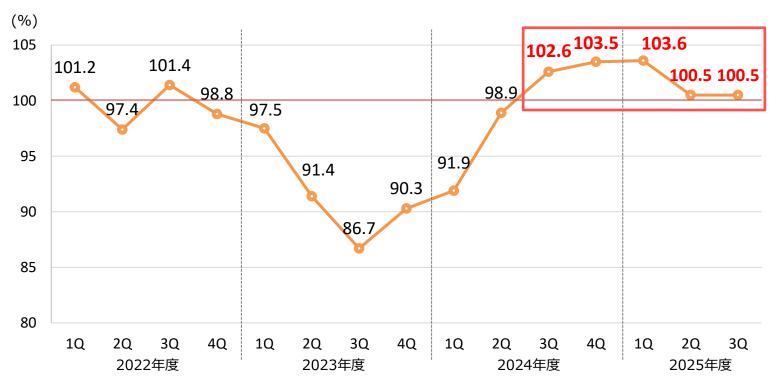


受験応援やエビデンス訴求広告

飲料食品事業(海外)

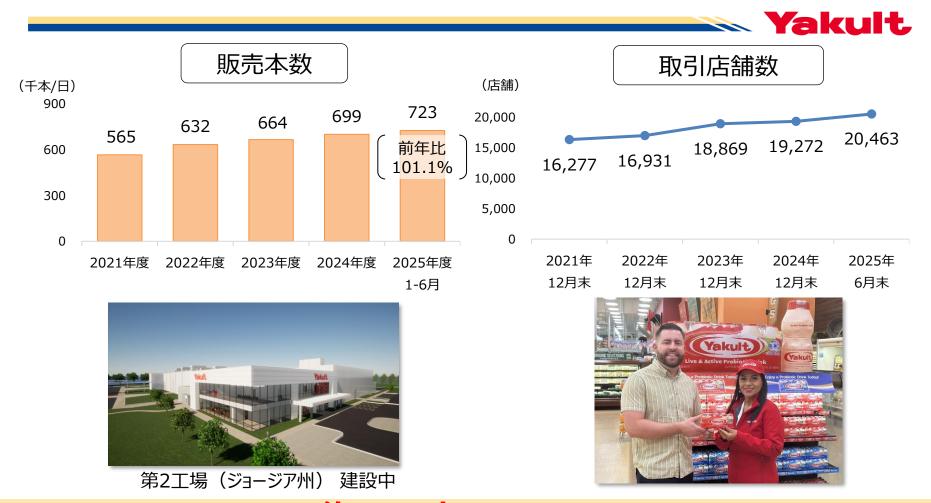


<四半期毎の販売本数前年比の推移(海外全体)>



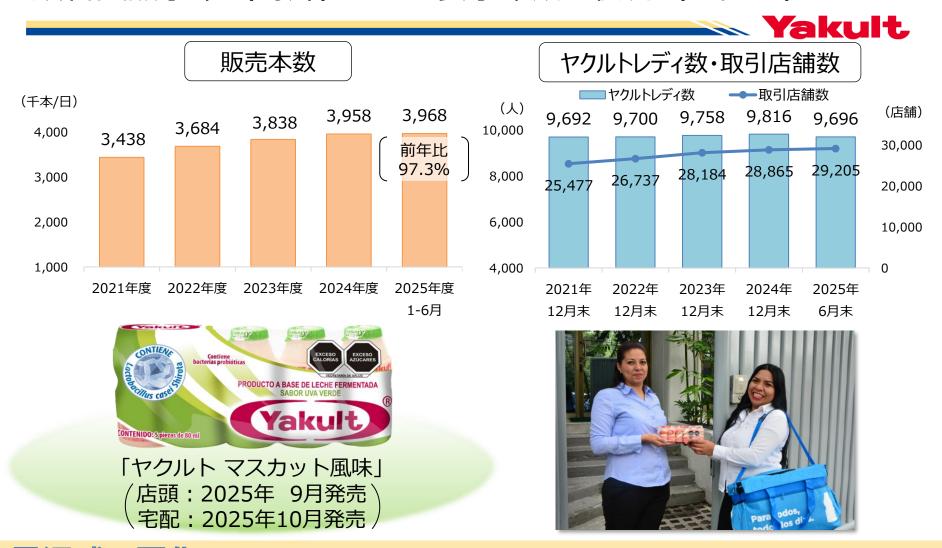
- ・2024年度第3四半期以降、5四半期連続で前年同期比を上回る
- ・全体的に底打ち感が出ており、回復フェーズに向かい、実績を徐々に引き上げていく

飲料食品事業(海外) ~主要事業所の状況(アメリカ) ~



- ・足元の販売本数は1日あたり約80万本まで増加
- ・現在、約2万店舗に配荷しているが、これはスーパーマーケット全体の半数も満たさず
- ・第2工場稼働後は既存商品の供給体制を強化し、その後、高付加価値商品の

飲料食品事業(海外) ~主要事業所の状況(メキシコ)~

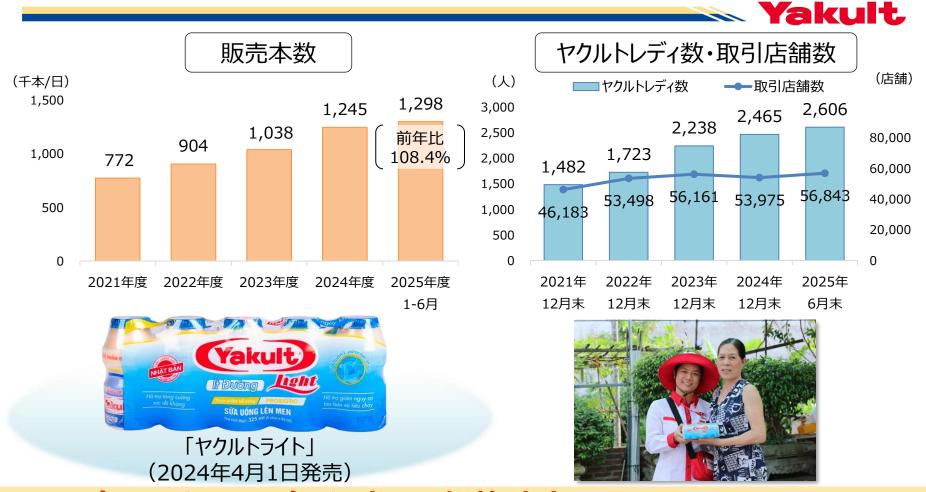


・景況感の悪化の影響を受け、販売本数が一時的に減少

作ることで、販売本数を押し上げる

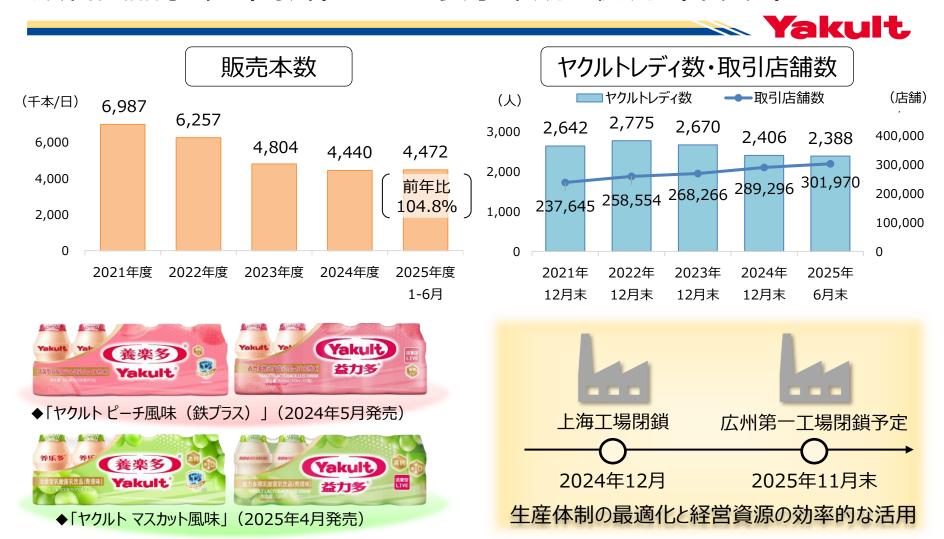
・「ヤクルト マスカット風味」がお客さまの興味を引き、商品を手に取るきっかけを

飲料食品事業(海外) ~主要事業所の状況(ベトナム) ~



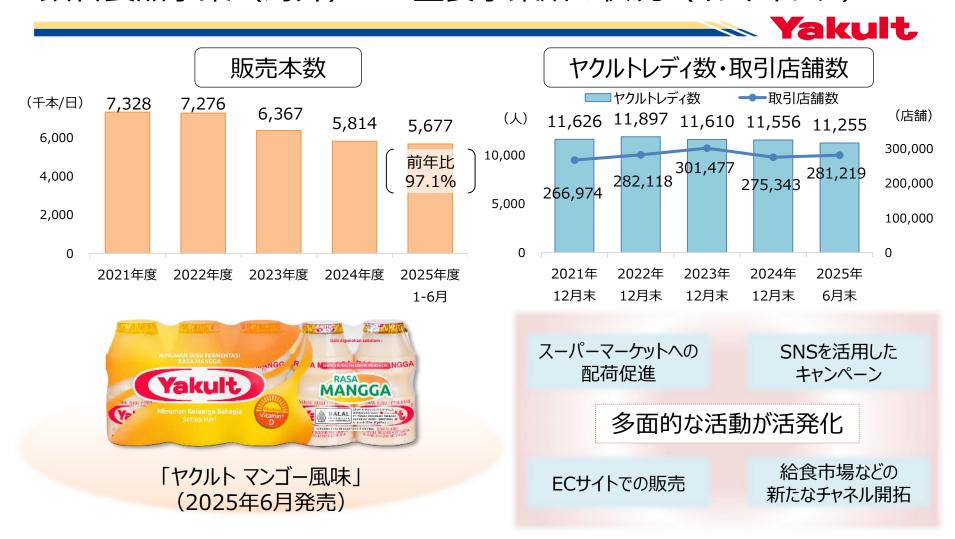
- ・2025年4月と5月に各チャネルで価格改定を実施したが、販売本数は 伸長を維持
- ・販売地域の拡大、店舗あたりの本数増といった深掘りの余地は依然として大きく、

飲料食品事業(海外) ~主要事業所の状況(中国※) ~



- ・第3四半期(7-9月)の販売本数は、前年比105.2%と5四半期連続でプラス
- ・4月に発売した「ヤクルトマスカット風味」も全体の押し上げに貢献
- ・11月末に広州第一工場を閉鎖予定で、固定費削減を図る

飲料食品事業(海外) ~主要事業所の状況(インドネシア)~



- ・第3四半期(7-9月)の販売本数は、前年比103.2%と14四半期ぶりにプラス
- ・6月に発売した「ヤクルトマンゴー風味」も全体の押し上げに貢献

当資料取扱い上の留意点



当資料に掲載されている過去の事実を除く、計画、予想などは、不確定な要因を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

当資料のいかなる情報も投資勧誘を目的としたものではありません。また、弊社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。万一、この資料に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いません。